

平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）検証のまとめ

1 平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）について

平塚市では、平成22年2月に平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）を策定しました。めざす子ども像を「進んでひととかかわる」「豊かな心をはぐくむ」「自分の考えをもつ」としました。また、第一次計画の50事業を①家庭、地域におけるつながり②学校におけるつながり③ぐるっとサポートするつながりを視点に、41の具体的な事業に整理し、0歳～18歳までのライフステージに沿った読書活動を展開していくこととしました。



平塚市子ども読書活動推進フォーラム

2 平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）の成果

家庭や地域では、ブックスタートの参加率やおはなし会の回数や参加者数の増加、学校においては、市内43小中学校にサン・サンスタッフ（学校司書）が配置され、学校図書館の蔵書の充実が進み、学校図書館を利用する児童生徒の割合が増えました。また、ぐるっとサポートする支援として、平成22年度に市内15中学校区の子どもの読書活動推進協議会を包括的に支援する「平塚市子ども読書活動ネットワーク運営委員会」が発足し、代表者会議の開催や情報交換会の実施など地域や学校で活躍する読書ボランティアの支援体制が構築されました。



サン・サンスタッフ（学校司書）

3 41の具体的な事業の最終評価

41の具体的な事業は、事業ごとに担当課からの進捗状況の報告を基に、関係各課の策定作業部会のメンバーがS～Dまでの5段階で評価しました。これを関係各課の課長等で構成する庁内推進会議で点検し、第二次計画の検証のまとめの最終評価としています。

5段階の評価の内訳は次のとおりとなっています。



平成27年度策定作業部会

平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）41の具体的な事業の最終評価の内訳

評価	S	A	B	C	D	評価なし
基準	目標以上	計画どおり	可とする	不足・不満	未達・未着手	
事業数	0	30	8	3	0	—
割合	0%	73%	20%	7%	0%	—

※個々の具体的な事業の最終評価はP2のとおり

4 平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）検証のまとめ

第二次推進計画の具体的な41事業の大半の最終評価は、A（計画どおり）、B（可とする）になりましたが、C（不足・不満）とする事業がいくつかありました。

これは、平成22年2月の計画策定当時から最終年度の平成26年度の5年間に学校・図書館だけでなく家庭も含めた読書環境が大きく変化したことが最大の要因です。この多くは、全国の読書活動に関わる者の共通の課題だと考えております。今後も広く市民の意見を聞きながら、全国の先進事例を研究し、第三次計画では、読書を通じて「考える力」「豊かな心」「人と人との絆」を築ける子どもを目指す姿に取組をすすめてまいります。

平塚市子ども読書活動推進計画 事務局

〒254-0041 神奈川県平塚市浅間町12番41号

平塚市教育委員会 社会教育部 中央図書館

電話0463(31)0415 FAX0463(31)9984

E-mail library@city.hiratsuka.kanagawa.jp



平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）具体的な41の事業の最終評価

No.	事業名	担当課	最終評価	評価の根拠
1	ブックスタート	中央図書館	B	参加率は50%程度で目標未達だが、参加率は上昇している。
2	1歳6ヶ月児健診フォローアップ教室	健康課	A	計画期間中に事業の廃止等があったが、目標値は達成することができた。
3-1	保育園職員の意識向上・保護者への啓発	保育課	A	研修や講習会の参加により職員の意識の向上や保護者の啓発が図られた。
3-2	幼稚園職員の意識向上・保護者への啓発	教育指導課	A	要請訪問・研修の実施により職員の意識の向上や保護者の啓発が進んだ。
4	地域の子育て中の親子への絵本の読み聞かせ	保育課	A	開放保育などを通じて子育て世代への読み聞かせ等の実施が図れた。
5	ボランティアによる園児への読み聞かせ	保育課	A	ボランティアとの連携により読書の楽しさの機会の拡充が図れた。
6	ジョイフルタイムの実施	保育課	A	計画に沿った形で事業を展開することができた。
7	家庭教育学級等での保護者への啓発	中央公民館	A	多様な講座の中で多くの読書関連事業の実施を行うことができた。
8	家庭への子ども読書活動の啓発	中央図書館	A	刊行物やイベントなどを通じて子ども読書活動の啓発を図れた。
9	子育て広場での読み聞かせ	保育課	A	子育て広場での読み聞かせを継続して実施することができた。
10	保育園での絵本の貸し出し	保育課	A	保護者等の意見を取り入れながら実施をすることができた。
11	子どもの発達段階に応じたおはなし会の拡充	中央図書館	B	目標に及ばなかったが、読書のアプローチとして価値が高い事業であった。
12	「子どもの家」でのおはなし会	青少年課	A	講座で学んだことを生かす非常に有意義な事業であった。
13	ボランティアグループとの連携による公民館の図書の実施	中央公民館	A	選書や配架、貸出まで関係団体と連携し、子ども図書費を有効活用した。
14	公民館利用者との連携による本のリサイクルボックス事業	中央公民館	C	思うようなりサイクル本が集まらず受入館が減少した。
15	使いやすい図書館	中央図書館	A	多くの児童に図書館利用のきっかけづくりとなった。
16	特別おはなし会や展示などの各種行事の開催	中央図書館	A	読書の日だけでなく多くの読書の機会づくりを行った。
17	図書館情報網による情報発信機能の充実	中央図書館	B	スマートフォンの普及などへの対応が遅れアクセス数が伸び悩んだ。
18	ボランティアグループ等への講師派遣などの支援	中央図書館	B	派遣回数が増え伸び悩んだが、活動の活性化では成果があった。
19	来館しにくい子どもへのサービス	中央図書館	B	全体の貸出点数が減少する中で出前図書館の貸出冊数は横ばい。
20	図書館サービス拠点の充実	中央図書館	A	返却ポストの設置箇所を増やしたことにより利用が増加した。
21	支援を要する子どもへの配慮	中央図書館	A	対象者が限られるが、間接的な支援も含めて利用が増えた。
22	読書相談や調べものサービスの充実	中央図書館	A	広報やホームページ等の周知により件数が増えた。
23	学校と図書館の協力事業	中央図書館	A	団体貸付の周知や意見交換の場の拡充により協力事業の件数が増えた。
24	中・高生向けの図書の充実	中央図書館	B	全体の貸出点数が減少する中で、工夫等により減少幅は抑えた。
25	学校司書の配置	教育総務課	A	学校司書の全校配置により、学校図書館が活発に利用された。
26	学校図書館の活用や読書指導の充実	教育指導課	A	連絡協議会等の情報共有により各校の様々な実践につながった。
27	読書活動計画の作成、読書の時間の充実	教育指導課	A	読書活動計画による読書の時間の充実が図れた。
28	読書活動推進のための校内協力体制づくり	教育指導課	A	学校司書が新たに配置された学校にも校内の協力体制づくりが図れた。
29	図書だよりなどの広報活動の充実	教育指導課	A	広報活動の充実が学校図書館の利用の増加などにもつながった。
31	学校図書館の蔵書の充実	教育総務課	B	確保した予算の範囲で蔵書数だけでなく内容の充実が図れた。
32	学校図書館の環境整備	教育指導課	A	現場の意見を情報共有し、各学校図書館の環境整備に反映できた。
33	「図書システム」の活用と学校図書館の機能の充実	教育研究所	A	各学校の蔵書のデータベース化で学校図書館の機能が充実した。
34	幼児と中・高生との絵本を介した交流の機会	保育課	A	交流を通じて中高校生の読書機会の充実も図れた。
35	子どもの読書活動に関する全市的なネットワーク組織の構築	中央図書館	A	子ども読書活動ネットワーク運営委員会の設立により活動が広がった。
36	ボランティア養成相談窓口（ボランティアビューロー）の設置	中央図書館	C	設置はできなかったが、目的とする情報共有の機会は増加した。
37	子ども読書活動推進協議会の活動の活性化支援	中央図書館	A	代表者会議等の意見も次期計画に反映することができた。
38	図書ボランティアの募集	中央図書館	A	ほぼ全校にボランティアが在籍し相応の成果があった。
39	中・高生のボランティア活動の情報提供や相談の機会の充実	中央図書館	C	数自体の把握が難しく成果は出なかったが、多くの活動事例はあった。
40	広報紙等での読書活動の紹介	中央図書館	A	子ども読書活動推進フォーラムや計画の策定等が周知された。
41	子ども読書活動推進フォーラムの開催	中央図書館	B	読書環境づくりでは成果が出ているが、開催方法等は検討の余地がある。